

季節のできごと

畑が耕されました。＜A＞ 今年（ことし）は7月（しちがつ）に雑草（ざくそう）を植（う）えました。

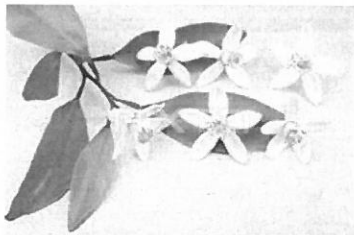
ニンジンやパセリなどが蝶（ちょう）の幼虫（ようちゅう）の食草（しょくそう）となります。

引き続き（ひきつづき）水田（みづい）が変化（へんか）していきます。＜B＞

土（つち）を耕（たが）すとハクセキレイやシジュウカラなども集（あつ）まってきます。



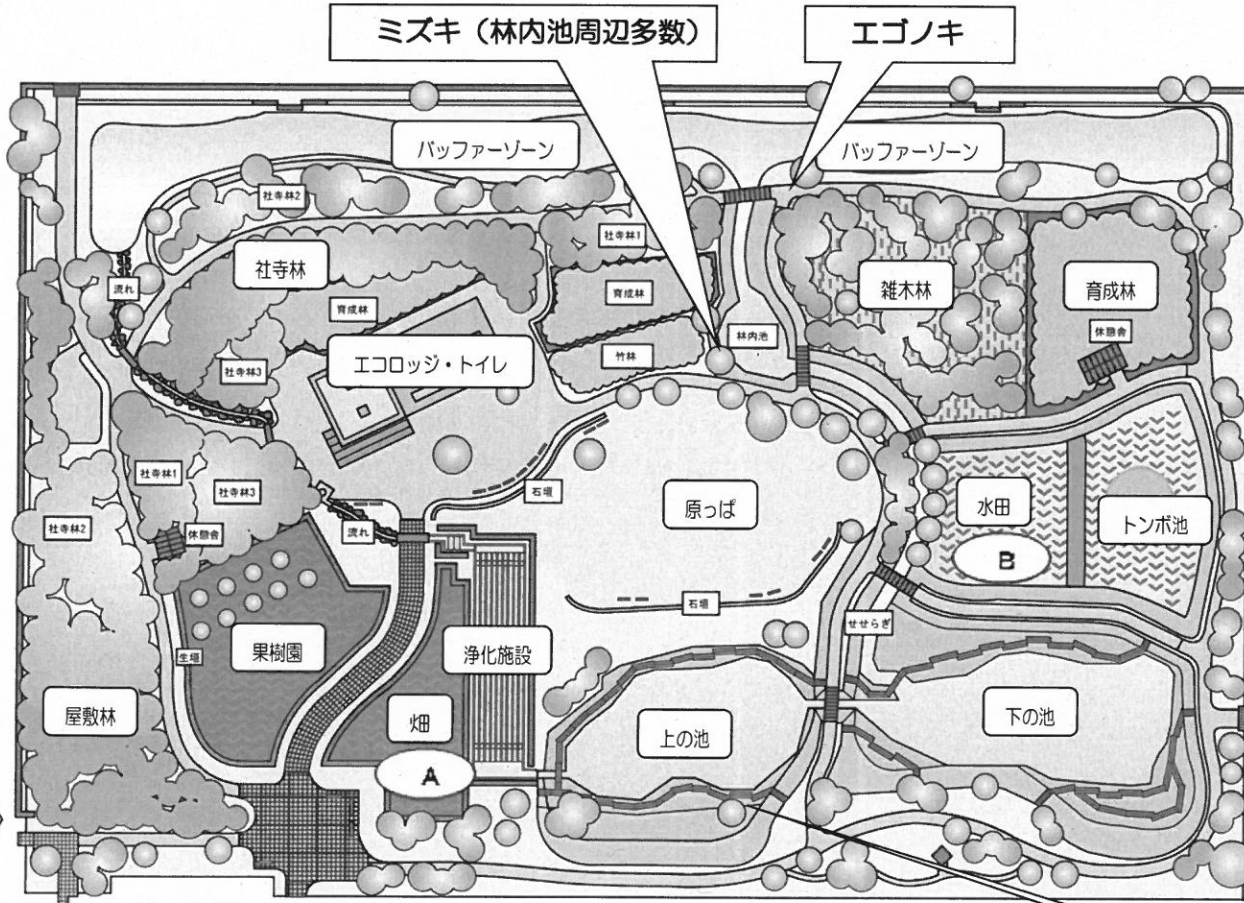
＊アゲハチョウ



夏みかんの木



アカバナユウゲショウ



ミズキ（林内池周辺多数）

エゴノキ

チュチュン チュチュン

チュイ チュイ
ピチュイ



ハクセキレイ



スズメノエンドウ



ノイバラ

てんぼうしつ
展望室

＊印は、裏に説明があります。

よんでさんこうにしてみてください。

ちょう しょくぞう
 ❖❖ 蝶と食草 ❖❖

蝶の成虫は口がストロー状になっていて(口吻)、花の蜜や樹液、腐った果物の汁など液体のものを飲みます。成虫が花の蜜を吸うとき、花の種類は特に限られません。蝶の種類によってそれぞれ好みがあるようです。また、口吻の長さによって蜜が吸える花の種類も限られてきます。

幼虫の場合はその種(仲間)ごとに限られた植物しか食べません。例えばモンシロチョウの場合、母蝶は卵を産むときにアブラナ科の植物を探しあてて、その葉などに産卵します。そうしなければ幼虫は間違った植物を食べないので、餓死してしまいます。このように餌とする植物が違うため、自然環境が豊かなほど多くの種の蝶が見られるようになります。

生態園で見られる蝶の主な食草・食樹です。下線の木や植物は生態園にあります。

モンシロチョウ：キャベツ、ブロッコリーなどのアブラナ科植物

モンキチョウ：シロツメクサ、スズメノエンドウなどマメ科植物

ジャコウアゲハ：ウマノスズクサ類

アオスジアゲハ：クスノキ、タブノキ、ヤブガラシ

アゲハ(ナミアゲハ)：カラタチ、サンショウ、ミカン類

キアゲハ：セリ、ニンジン、パセリ

クロアゲハ：カラタチ、ミカン類、カラスザンショウ

ゴマダラチョウ：エノキ、エソエノキ

コムラサキ：ネコヤナギ、カワヤナギ

ツマグロヒョウモン：パンジー、スミレ類

ヒオドシチョウ：エノキ、ヤナギ類

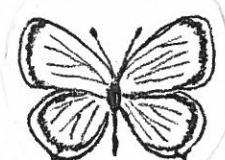
コミスジ：クズ、フジ、マメ科植物

ベニシジミ：スイバ、ギシギシ、タデ類

ヤマトシジミ：カタバミ

ツバメシジミ：シロツメクサ、ゲンゲ、クサフジ

キタテハ：カナムグラ、ホソバイラクサ



シロツメクサと
ツバメシジミ(オス)

❖❖ ミズキ ❖❖



新緑の木々のなか、
扇状に広がった枝の上面に
白い花が密集して咲いているのは
ミズキです。

階段状の独特の樹形から「テーブル・ツリー」とも呼ばれています。地中から大量の水を吸い上げ、早春に芽吹く頃に枝を折ると、水のような樹液が滴ることから「ミズキ」の和名がつけられました。幹にオレンジ色の部分があったら、滴り落ちた樹液の糖分と空気中の菌がついたものです。

ミズキは成長が早く、材は白く柔らかく加工がしやすいため、こけしやこまなどに利用されています。

なお、同じ時期に枝先に白い星型の花が垂れ下がるように咲いているのはエゴノキです。



エゴノキ エゴノキ科
[Styrax japonica]

❖❖ アオサギ ❖❖

アオサギは全長約93 cm で、日本で一番大きなサギです。

生態園で年間を通じて水辺などで姿を見かけます。河原などにいるときはほとんど動かず、木の枝などで首をまっすぐにし、羽を半開きにするしぐさを見かけることがあります。これはアオサギ特有のもので、日光浴をしているといわれています。